内郷村報

年一回一日發行

年分一部金四十錢　定價一部金四錢　郵税共八錢

發行所　福島縣石城郡内郷村字宮下二二

編輯兼發行人　大内民惠

印刷所　福島縣石城郡平町一丁目二九

内郷村報社

株式會社　平活版所

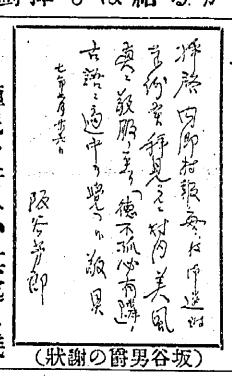
我等を歡迎する

三大方面

大内民惠

今や我國は、朝野をあげて、どうしたらよいかといふ一大危機に瀕して居る。之に對して記者は、管見を以て答案を述べて見やうと思ふ。

世界の大勢を瞥見するに從來國際的であつた、政治も外交も將た經濟もといふ樣にあらゆるものが、今や自主政治であり、自主外交であり、自主經濟であり、自主何々等々であらねばならぬ時代になつたのではあるまいか。延いては之を、府縣市町村、一家一身と、各々低下したる單位について考へるとすれば、一身も一家も、市町村も府縣も、先つ自主自力を以て生き、いよ〳〵力及ばざる場合に於て、始めて他の補助匡濟をうけて、更生の道を講するといふ段取りとなるべきで、即ち今日の流行語でいへば、自力更生である。而して自力更生は自給自足から出發すべきは當然である。即ち俸給生活者は、其俸給を以て、他の各種生業者は其生業收入を以て、何れも其有する能力を十分に發揮して以て、自給自足の計劃を立つべきである。されど今日の國情を以てしては年々八九十萬の人口は增加し國民各戸は何れも負債に苦められ、農家の如きは一戸平均一千圓内外と稱せられ、それに國債七十億地方債二十三億を有し、一戸當り七百圓といふ計算になるのである。加ふるに今日の不況を以てしては、其根本生活に於て、既に自給不足の狀態にあるのである。茲に長大息をせざるを得ざると同時に、どうかしなければならなくなつて居るのである。之に處するの道はどうか。それは幾つもある事と思ふが、こゝに其一つを擧げて見やうと思ふのである。それは先つ國民各戸が、自給自足の方針に則り每戸最少限度の人員を以て極力其各自の生業を維持經營する事とし、其餘剩者則ち餘剩國民（失業者及學校出の就職難者等も之に含む）は之を督勵聲援して、



（坂谷男爵の謝狀）

移殖民を行ひ、其處に幾分にても緩和を計ると共に、内外相呼應協力して其不足分を補ふ方針をとる事が、最大急務であり、最大有利有力なる方法ではないかと思はれる。而して其移殖地としては、目下の狀勢に於て、滿洲、南米ブラジル及北海道の三方面を擧げる。以下少しく説明を試みる事とする。

滿洲は、今や我國力の發揮によつて、獨立國として其組織を一新し、門戸開放の機運を招來し、同胞流血の辛酸によつてかち得たる權益を擁護するは勿論進んで其伸展躍進を期すべき絶好の時機が到來したのである。其

地積は我國に二倍し、人口は三分の一、人口密度は一粁平方二十九人と稱し（或國は百三十五人）無限の資源を藏して居る事は周知の事實である。それに對する我移殖民事業は、既に民間に於ても、二三之に着手したる向もあり、國家としての政策は、草創の今日未だ確立するに到らざるも、

拓務省では、二十余萬圓を計上して、仙台、弘前、宇都宮三師團下の在郷軍人團員中より、第一回試驗移民として、相當の補助金を與へて、五百名丈を送る計劃を立てられ、今期議會を通過すれば、即時實行の運びになつて居る。之が若し實現するとすれば、其有資格者は、奮つて之に參加し、第一線に立つて規範を示し、陸續後繼團体の進出を促進する樣にしたいものである。次には

南米ブラジルであるが、其地積は我に十三倍し人口は二分の一弱、密度は一粁平方僅かに四人六分で今後尚八億五千萬の人類を收容し得られる可能性を有し、世界各國民殊に我等日本人を歡迎する狀態であり我政府に於ても

補助金（大人二百圓、小兒百圓、船賃に相當す）を與へて奬勵し、既に十余萬の同胞は、此樂天地にあつて、着々成功の域に達しつゝあるのである。所謂我餘剩國民にして、思想堅實身体强健、勞働に堪ゆる者は勿論、よしんば堪へざる者にありとも、こゝが生死の岐路に立つ事を自覺して、死を賭しても勞働に堪ゆる丈の、修養鍛練を積んで、共に雄飛する樣にしたいものである。次に不幸にして滿洲にも南米にも移住する資格なく、其境遇に於て内地を離るゝ事を得ざるものは

北海道に移住すべきである。北海道は九洲臺灣に廣島縣を併せたる面積を有し、人口二百八十一萬余人で、一粁平方僅かに三十二人の密度を示し、尚優に三百萬の人口を收容し得られ、八十萬町歩の未墾地が其開拓を待つて居るのである。而して同道廳では、拓

（以下二面へ）

内郷村報の六大使命

一、政黨政派を超越して、村力充實主義を標榜す。

二、村内公私各機關の活動狀況を報導し併せて其協調を計り、總親和總努力の實現を期す。

三、本村共濟事業の徹底を期す。

四、村内の善事美行を表彰し、且之を奬勵す。

五、本村と本村出身者及本村關係者との聯絡を計り、且其發展向上を期す。

六、尚餘力を以て、國民善導に當る。

本紙發行は大内一家の事業にして、其の社説は子孫に對する遺言を兼ぬるものなり。

有之候。午後四時多數官民の歡迎裡に來天着、各宿舍に入り申候。此夜歩兵第二十九聯隊將校團よりの招待を受け、事變以來各地に勇名を縱にせる我が平田聯隊の勇士稱せられ頗る盛會を極め、終始緊張裡に式を終り申候。午後大會場に隣接せる教育專門學校々庭に於て野宴あり、故藤久淵を叙し歡談時の過ぐるを知らず。午後二時

六月七日　奉天發、北行約二時間にして昌

た時之迄ならば最後迄踏み止つて徹底する長堀壯三君散會を待ち切れず家内が待つて居ますからとばかり立ち上つたので先輩後輩ヤンヤの大喝采茅出度し〳〵。

（一面よりつゞく）

殖二十年計劃を立て、約八千萬圓を其資金に充當し、移民一戸に對しては三百五十圓以内を補給し尚種々有利なる奬勵方法を講じて居るのである。

以上略述する處を結語すれば、こゝ十年位を一期として、現在其地位生業を有する國民は、極力其能力を發揮して、自己の地位生業の維持發展を期し、所謂餘剰國民は、實地勤勞開拓者として、それ〴〵境遇に應じて、三方面の何れかに移住して第一線に立ち、逐年後續者を送り漸次各種生業者をも送るといふ樣にするのである。こゝに自主政治、自主外交、自主經濟等々すべてが確立し、自力更生、自給自足生活の第一階段が出來上る事と思はれる。

回顧するに記者は、弱冠にして、我國人口問題に着眼し、爾來四十年終始一貫其研究と實現方法とに沒頭し、人よりは杞憂として嘲笑せらるゝ事幾度であつたか知らないが、今日それが眞憂となり、かうした方法を取らざるを得ざる狀勢となつた事は、一面記者の豫言の不幸にして適中したるは快とするも、一面國家の前途に對しては、轉た寒心に堪へざる次第である。たゝ此際は國民各自が、其最善を致して、叙上の如き打開策を講ずる外はあるまいと思はれる。

記者は南米ブラジル及北海道移住に就きては、相當に調査をして居るから希望の方は、遠慮なく問合せられたい。樺太南洋方面は調査の結果、目下其時期でないと思はれる。

本村の救濟事業

本村當局に於ては、各區長各共濟委員等の手によつて調査したる、失業者四百十戸人員千八百四十七人の救濟に關し、八月四日臨時村會を開催して熟議の結果工費四千八百圓を計上し、第三小學校敷地地揚工事を施行する事に決し、滿一ケ年以上本村居住者中より前記四百余人の登錄を行ひ、一日五十五名つゝを割振り八月二十一日より愈々着手した。金澤助役村議小松沼田佐藤生田猪狩廣瀨の各土木委員及各區長の諸氏熱心に之が指揮監督の任にあたつて居る。因に役場の調査によれば、右の內最低限度生活者は、百十三戸四百二十五人、辛うじて生活し得るも、教育費醫療費に給する者、六十六戸二百五十三人で、救護法により救護しつゝあるは二十四名、一日の支出金三圓[illegible]の由。

納稅組合表彰

立毛品評會褒賞

右兩授與式は七月二十七日午前十時半より役場に於て舉行され、納稅表彰をうけたる組合は二十九、人員七百二十八に及び、品評會受賞者は、特等高木貞利、一等根本酉次郎吉田連次、二等下山田喜造野田辰次郎鈴木新一遠藤鐵吉大平久米次三等八人、四等十人、五等十四人で、村長の挨拶、平稅務暑長高坂校長の祝辭、受賞者惣代の答辭等あつた來賓は佐藤直稅課長、村內各校長、村會議員區長等であつた。

小供プール

大人のプールは出來たが小供のプールが無くてはと內郷勞務支配下の從業員諸氏は、七月二十一日同二十八日の兩公休を利用し、五百余人が出動奉仕して、峯根貯水下に、長四十米巾八米のプール作り上げたので毎日數百人の兒童等が其恩澤に浴する事となつた。

佐藤校長叙任

從來奏任待遇であつた高坂尋常高等校長佐藤一氏は八月一日付にて、特に高等官七等を以て待遇せらるゝ事となつた。人格經歷手腕共に斯くあるべき事で、獨り同氏の爲のみならず、村教育上大に慶賀すべきである。村民何れも良校長を得たる事を喜んで居る。

小供プールを工事奉仕從業員

磐炭役付會

七月例會は二十一日集會所に開催、濱崎課長中心となつて、殉職者追悼會、汽車電車[illegible]通行禁止の件、コークス使用の件、盆踊の件平瀉行の件、總親和會々則制定の件等につきて、指示協議し、引きつゝき販賣課首席隅田卓失氏の販賣に關する希望開陳等あつた。

殉職者追悼會

磐炭に於ては舊盆十三日瑞芳寺に於て、濱崎課長司式にて、明治二十八年以來の殉職者四百八十三靈の莊嚴なる追悼會が擧行せられ讀經、菅原所長の祭文捧讀遺族並に會田院長以下參列役員の燒香があつた。

盆踊

例年の通り舊七月十四日より三日間宮山神社境內、金坂運動場綴山神社境內に於て、盛大なる盆踊があつた。

共同供養會

宮澤親和會にては例年の通り舊盆十四日瑞芳寺に於て二十五靈の爲に共同供養會を擧行した。

自己の純心は人の純心の扉を開き怒りと慾心とは人の純心の扉を閉す。自らを純心ならしむる修養なくては自他の心は闇に鎖される

「感想」（八）　大倉　邦彥

本紙贊助金寄贈芳名

金二圓　綴　某　氏
金一圓　仙臺　齒部　金彌
金二圓　高坂　根本金三郎
金一圓　綴　山崎杢三郎
金二圓　福島　高木　吉助

（昭和五年八月八日第三種郵便物認可）

矢野恒太序　大內民惠著
服部宇之吉
教育制度改革概論
（四六版二一一頁　定價五十錢　郵稅六錢）

行き詰れる現代の教育制度を解體して、學理と實際と、歷史と實驗とから新に大內案九主義を提唱す。天下知名の士の贊同枚擧に遑あらず。されど未だ一人の抗議者も現はれず。

我國教育學界の權威
京大教授小西重直博士
書を寄せて曰く、多年ノ御體驗ト實地ノ御試練ニ基ク眞摯憂國ノ大精神ヲ拜味仕リ不思感激ニ打タレ申候云々。

磐炭の整理と新陣容

るので舟を止めて見物した。此處からは陸の山々が雲烟糢糊、一山毎に幽かに、恰も畫中を行くの思ひがし、明眉の[illegible]頂に到る。此處こそ往昔將軍義家が馬を止めて櫻花を詠した所である偶に櫻の蔭に山陽や茶山等の

驛發にて乘車、六時九分綴驛着解散した。（弘喜記）

水泳大會

八月七日朝曙保校課長氷

發行所　日本評論社　東京丸ノ內昭和ビル
取次所　內郷村報社

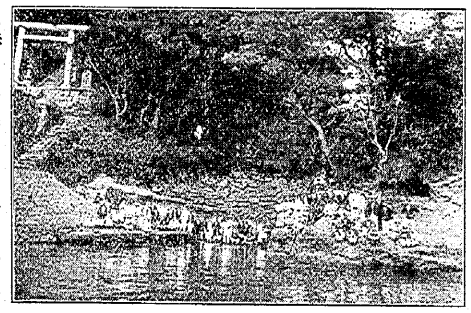
磐炭の整理と新陣容

磐炭では打續く財界の不況に當面して、之が打開更生に物凄き努力をなし、先に綴坑のセメンテーションに成功すると共に、一般作業を機械化して能率増進を計り、高坂本坑を休止するや、坑外二坑に全力を注ぎ市場の關係等にも鑑みる處あつて、勞働者の整理を斷行し、之に伴ひ引き續き役員整理の噂も高かつたが、遂に八月二十五日四十二名の職員諸氏休職の發表があり、越えて二十七日三十六名の傭人見習定夫小使諸氏退職の發表があつた。而して新に濱崎善三郎氏は事務部長、小島良利氏は勞務課長、田寺茂實氏は礦務課長、金原喜一郎氏は製作係主任にそれ〴〵昇格轉課し、隅田卓夫氏は販賣係首席、長堀壯三氏は調度課首席に昇任した。因に以上休職退職となつた方々は、何れも本紙の強大なる後援者であり又我一家にとつても、公私共に眷顧を蒙りたる間柄なるを以て、特に此際其厚情を感謝すると共に、相變らず交誼を垂れらる樣、失禮ながら紙上で懇願いたします。

菅原所長

平潟の役付會

八月七日磐炭役付では大會を兼ねて平潟に一日の清遊を試みた。福島越田和齋藤隅田諸氏の賓客も加はり一行百三十名、石橋兩田中山崎各主任引率の下に午前七時半湯本にて勢揃ひし、軌道にて小名濱に到り、築港から發動機二隻に分乘して八時解纜、大小の旗幟を翻々と朝風に翻し乍ら威勢よく沖に出る。進むに從つて開け行く浩茫たる大海、それにおあつらひ向きの天氣、一同右を見左を見て喜ぶ、劔濱に出ると白堊の絶壁が切り立つてゐるが海中手離島の頭を擡けたるも面白い。植田の沖では折しも二三の漁船が網を上げて居るので舟を止めて見物した此處からは陸の山々が雲烟糢糊、一山毎に幽かに、恰も畫中を行くの思ひがし、涼味百パーセントである。


平潟八幡社前の役付

九時四十分平潟着、會場なる保養館に小憩の後小數を殘して勿來關探勝に向ふ。二つの洞門を拔け、鐵道線路を越え、數町にして風光明眉の頂に到る。此處こそ往昔將軍義家が馬を止めて櫻花を詠した所である偶に櫻の蔭に山陽や茶山等の詩の掲げられたるを見て流石に追昔の情に堪えなかつた。一同歸館し十一時から石橋主任及隅田氏の挨拶や報告事項があつて酒宴に入つたが、劈頭大内七年會長が達磨大師の樣な格好をして食膳に供へた鰹や鮑に讀經して引導を渡し引つゞき例の花盡しで精進上げをしたので一同捧腹絶倒、次いで田中内郷勞務の智者は治に居ての蠻聲終るや、百三十の連中がサアヤレの騒ぎやがて美妓紅裙が入り混れば亂痴氣騒ぎとなり、滑稽至極な盆踊となる。一同歡を盡し足を引いて八幡宮下に寫眞撮影、斯くて清遊の限りを極め五時二十分磯原驛發にて乘車、六時九分綴驛着解散した。（弘喜記）

水泳大會

八月七日明智保險課長水野出口鈴木諸氏等多數の來賓を迎へ、菅原所長以下各役員參列の下に、新プール開場式を擧げ、鶴田顧問以下八名の工事功勞表彰後大競技を行つた。

天人會

第三回は七月二十三日集會所に開催。小島良利氏は朝日新聞にあらはれたる事件につきて、隅田卓夫氏は資本主義經濟論の講演あり第四回は八月二十日同所に開催。長堀壯三氏は取引所の機能、沼田少佐は滿洲視察の感想談あり。何れも雄辯を振はれ稗益する處多大であつた。次回は佐藤一井上惠助の二氏補缺は齋藤齊氏と決定した。

濱崎事務部長

（之は繁劇なる執務中、記者の問ひに應じて、語られたる談片の大要である。）

私が勞務課長になつてから五年十ヶ月其間は全く多事多難に終始しましたが、あらゆる人々の御後援により、先つ大過なく今日に到りました事は、私にとつては寧ろ奇蹟位に思つて居ります。私は勞務課長の任務は非常に重大であると最初から考へましたので、五年十ヶ月間は全く命がけでやつた積りであります。從業員の爲ならば例令一命を捨てゝも悔いない覺悟を以て來ました。私の此覺悟此信念は、從業員諸君にも知らず〳〵の内にも判つてくれたと思ひますそれから今度の職員諸氏の休職ですが、此失業洪水時代に多年會社に勤勞を拔んでられた多數の人々に、勇退を願ふ會社の苦衷を諒としていただきたいと思ひます。何れも共苦衷を快く納得して下されたには涙なくしては見る事が出來ない光景でした。

之を以て大國圓となつたのでありますから、私共は菅原所長統制の下に、全從業員が一糸紊れず、會社更生の爲に、總努力をして行く覺悟です。

今後の抱負ですか……それは唯至誠努力の四字あるのみです。

就任に際して感想と抱負と

事務部長　濱崎善三郎

矢野恒太序　大内民惠著
教育制度改革概論
（四六版二一一頁　定價五十錢　郵稅六錢）

行き詰れる現代の教育制度を解體して、學理と實際と、歴史と實驗とから新に大内案九主義を提唱す。天下知名の士の贊同枚擧に遑あらず。されど未だ一人の抗議者も現はれず。

服部宇之吉
我國教育學界の權威
京大教授小西重直博士
書を寄せて曰く、多年ノ御體驗ト實地ノ御試練ニ基ク眞摯憂國ノ大精神ヲ拜味仕リ不思感激ニ打タレ申候云々。

發行所　**日本評論社**
東京丸ノ内昭和ビル
取次所　**内郷村報社**

七月例會は二十一日集會所に開催、濱崎課長中心となつて、殉職者追悼會、汽車電車通行禁止の件、コ

小供のプールが無くてはと内郷勞務支配下の從業員諸氏は、七月二十一日同二十八日の兩公休を利用し、五

金一圓　仙臺　藪部　金彌
金二圓　高坂　根本金三郎
金一圓　綴　山崎李三郎
金二圓　福島　高木　吉助

滿鮮視察一日一信（其二）

陸軍騎兵少佐　沼田濱之助

六月三日

流す筏の鴨綠江を車窓に眺めつゝ午前九時頃安東に到着、稅關の檢査を受け各自の時計を滿洲時間に合せ、僅かに河一條にて風物を異にする滿洲に一歩を印し申候。一行を出迎ふべく奉天聯合分會より中屋中佐安東迄參られしが同中佐は永沼挺進隊に屬し、勇名を馳せたる人にて目下奉天にありて事變突發以來該地在鄕軍人會の重要人物として活躍致し居られ候。

今回の旅行中滿鐵並に各地在鄕軍人の一方ならぬ御盡力を深謝するものに候が、鮮內は勿論、滿洲各地に於ても各車毎に案內者同乘して沿道の說明を受けたる次第にて、視察上非常なる運宜を得申候

本溪湖の南に宮原（ミヤハラ）と申す驛有之候が、三十七八年戰役の際、金枝玉葉の御身を以て、軍の最右翼に御奮戰遊ばされし閑院宮殿下の古戰場に因み斯く驛名を改めたるものにて、同驛の東方遙かに山上木碑の樹立しあるを見るは吾人の尊ぶべき紀念に御座候。安奉線に入りては各驛毎に匪賊に備ふる爲、鐵條網を張り、土囊を積みて之に備へつゝあるを見て如何にも戰時氣分になり、內鮮旅行中は厄介扱されし拳銃に彈藥を裝塡して各人非常時に備へ申候。本溪湖驛の南約十町、公園內に第一軍の戰蹟紀念碑を認め申候。當地は鞍山製鐵所と並び製鐵所として夙に知られたる所、又石炭の產出も有之候。午後四時多數官民の歡迎裡に奉天着、各宿舍に入り申候。此夜歩兵第二十九聯隊將校團よりの招待を受け、事變以來各地に勇名を縱にせる我が平田聯隊の勇士と膝を交へて戰話を聞くを得たるを悅ぶものに御座候。

六月四日

撫順は奉天の東にして渾河を隔てゝ撫順城と相對し居候。初め市公會堂にて一般的の說明を受け、更に電車にてオイルセールを利用して重油を採取する乾溜工場の見學を致候。此方面の智識を有せざる小生には只々規模の宏大なるに驚く許りに御座候生產豫定年額を擧ぐれば、重油約四萬八千噸、粗パラフイン約一萬五千噸、骸炭約四千九百噸、硫安約一萬八千二百噸の由に候。次に撫順炭礦は鑛區面積約千八百二十一萬坪にして炭層の原さ平均百三十尺、含有炭量約九億五千噸とか申候。小生等は古城子露天堀を見たるに機械力の利用多く、總採炭額坑內堀にて三百万噸、露天堀にて三百萬噸の由なるも從業員數の少きには驚申候、炭は日本炭と同じく第三紀層に屬し、其色漆黑光澤あり、揮發分に富み燃燒熾盛にして七千五百カロリーの火力を有する有煙炭の由に御座候

六月五日

午前八時奉天忠靈塔前に集合招魂祭を施行し引續き大會に移り申候。大會は開會の辭に初り君が代合唱。勅語奉讀、令旨奉戴、會長訓示、陸海軍大臣訓示、滿洲聯合支部長歡迎の辭、來賓祝辭、會歌合唱、聖壽萬歲、閉會の辭の順序にて、當日の參列者約二千五百と稱せられ頗る盛會を極め、終始緊張裡に式を終り申候。午後大會場に隣接せる敎育專門學校々庭に於て野宴あり、故舊久濶を叙し歡談時の過ぐるを知らず。午後二時より大和ホテル屋上に鈴木會長の日露戰史の講話あり、閣下は往年滿洲軍總司令部幕僚として親しく帷幄に參畫し又彈雨の間に馳驅せるの士、指示する處又兩軍の雌雄を爭ひ屍山血河の巷にして感慨盡くるを知らず、特に談偶々李官堡に及び大越中佐の最後を聞くに至りては、血湧き肉躍るの想有之候午後七時より奉天高等女學校に於て國防滿洲國の組織及政治產業經濟移民等に關する講話あり、長途の旅行に引續き連續的の見學、講話等急に滿洲認識を詰め込まれ候爲、聊か食傷氣味の疲勞を覺へ申候

六月六日

朝ヤマトホテル前に集合、豫め準備されたる幾臺かの自動車に分乘、自動車行列と云ふ格にて奉天市中を練り廻し、行人の目をそばだて申候。北大營は今回滿蒙事件のスタートを切りし所に御座候、此戰闘の指揮者島本中佐より戰闘經過を聽くを得候、中佐は（軍人は默つて働き默つて死ればよい）と云ふ堅き信念を持つて居ると前提して詳細なる說明あり候。彼れ東北陸軍の精銳として誇示せる萬餘の敵を僅に六百の寡兵を以て急襲し縱橫奮擊して其胆を奪ひ、悉く之を掃蕩潰亂せしめたる當時の戰況を實地に就いて知るを得申候支那兵營に近く戰死せる我兵の新墓を吊ひ、忠魂を慰め申候。更に一轉して舊市街を經て兵工廠及飛行場に參り候。兵工廠は設備だけでも一億圓以上もかゝつてゐるボイラーなど三十以上も備つて居ると云ふ素晴しさに御座候。將來各種工場として之を利用し、奉天を大工業地として發展せられ居り候

六月七日

奉天發、北行約二時間にして昌圖驛の西方約一里に滿洲軍最終陣地の標示を見、越えて一驛、泉頭驛の南方約十五丁鐵道線路に沿ふ處に同戰役休戰締約地を標示せるもの有之候。會主嶺驛に下車し同地農事試驗場の見學をなし、農業植民に就いての講話を聽き、更に長春驛に下車、小憩の後、吉林に向ひ申候

六月八日

朝吉林着幾百と云ふべき支那馬車に分乘し第二師團師令部に至り慰問す、當市は松花江に臨み四季共に交通の幹線をなす、即ち可航の季節には舟や筏により河上凍結の冬は馬車や橇により、上流は官街より下流は伯都訥に亙りて物資の集散行はれつゝあり、就中筏による木材の運搬は背地を有することとて此處に集る編筏の江面を蓋ふ樓、寔に壯觀なるものに候。此日我鄕の人、若松騎兵聯隊長約四十里を隔つる敦化より態々來られ當地附近の狀況を具に話し吳れたるを感謝仕候が同氏は事變以來各地に轉戰偉功あり、曾て昂々溪附近の戰闘に於て負傷されしも今や全く癒へて元氣潑溂に御座候、斯くて吉林附近の見物を終り、第二師團參謀より同師團警備に關する講話あり、引續き再び車中の人となり哈爾賓に[illegible]て申候。（以下次號）

（一郎の漫畫通信）

本文

暑熱炎天何ものぞ！

これよりいよ〳〵暑さに對する抵抗力の種蒔きを御座い。

いろ〳〵御配慮をいただいた長男も、右の通りの元氣で百姓に精勵して居ますから御安心を願ひます。（民惠）

俳句

麥笛吟社

七月三十日石田修二君長女眞琴孃三歲を以て夭折せられたる悼み八月二十日修二庵に同人相寄つて追悼句會を開催す左は其吟句の一部である

緣に來し虫大切に鳴かせけり　ひでを

虫きけば句を作りたくなりにけり　野壽司

ほろ〳〵とこぼれ溜りぬ鳳仙花　修二

草刈女朝露浴びて戻りけり　たけし

鳳仙花きれいな花に咲きにけり（少年）　ゆたか

地藏會の石に立てたる灯かな　半仙

もくげ垣黃顏の花ありにけり　六王

一しきりかがやき消えし燈籠かな　雲浦

初秋の朝に背延びす勤め人　二樓

道埃かむれる垣や花もくげ　撫山

滿洲　目黑　星甫

雨やんで靜かに飛べる柳絮かな

雷に曠野くまなく明るけれ

銃聲に目覺むことある書癡かな

戻れば現はれにけり夏の蝶

戰のありたるあとのあやめかな

路汁に書餉ラッパのなりわたる

銃劍の光りて月の涼しけれ

瘡痍を物語りゐる裸かな

手の汗の銃に傳はり流れけり

旭さすやはざまに殘る夏霞

餘錄

さる旅亭で慶大出身者の會があつた時之迄ならば最後迄踏み止つて徹底する長堀壯三君散會を待ち切れず家內が待つて居ますからとばかり立ち上つたので先輩後輩ヤンヤの大喝采茅出度し〳〵。

昭和五年八月第三種郵便物認可

内郷村報

第一回一月分　定價一部一錢　郵稅共　年分一圓　郵稅共

編輯兼印刷人　内郷村報社　福島縣石城郡内郷村宮字宮前二

發行所　福島縣石城郡内郷村宮字宮前二　内郷村報社

大内民嘉

内郷村報の六大使命

一、政黨政派を超越して、村力充實主義を標榜す。

二、村內公私各機關の活動狀況を報導し併せて其協調を計り、總親和總努力の實現を期す。

三、本村共濟事業の徹底を期す。

四、村內の善事美行を表彰し、且之を奬勵す。

五、本村と本村出身者及本村關係者との聯絡を計り、且其發展向上を期す。

六、尙餘力を以て、國民善導に當る。

本紙發行は大內一家の事業にして、其の社說は子孫に對する遺言を兼ぬるものなり。

るを得ざると同時に、どうかしなければならなくなつて居るのである。之に處する道はどうか。それは幾

開放の機運を招來し、同胞流血の辛酸によつてかち得たる權益を擁護するは勿論

一粁平方僅かに四人六分で今後尙八億五千萬の人類を收容し得られる可能性を有し、世界各國民族に戎拳日